

(1) 特筆すべき教育活動の取組と成果（大学教育改革の支援プログラム（GP等）の採択状況と取組、グローバルCOE等の大型プロジェクトの採択・実施状況などを含む。）

1. 薬剤師認定制度認証機構より認証されたMCS（Master of Clinical Science）コースを継続し、平成22年度はのべ351名（薬剤師228名）の出席者があり、10名に講義課程修了、2名に東北大学病院治験センターでの実習を実施しMCS称号を認定した。
2. 特別経費「高度医療を担う次世代型専門薬剤師育成のための実践的臨床薬学教育システムの構築」（平成20～24年度）を引き続き推進した。
3. 地域薬局学寄附講座が「地域薬剤師研修会」の一環として、講演会「糖尿病の診断基準と治療指針」（22年9月21日、地域薬剤師80名参加）及びワークショップ「症例検討：2型糖尿病」（23年1月15日、地域薬剤師28名参加）を開催した。
4. 日本学術振興会最先端・次世代研究開発支援プログラムを3件推進している（徳山英利教授、大槻純男准教授、矢野環准教授）。
5. 3件のGCOEに参画した（山口雅彦教授（拠点リーダー）：分子系高次構造体化学国際教育研究拠点、寺崎哲也教授（事業担当者）：Network Medicine 創生拠点、倉田祥一郎教授（事業担当者）：環境激変への生態系適応に向けた教育研究）。
6. 文部科学省キーテクノロジー研究開発を推進した（青木淳賢教授）。
7. （独）医薬基盤研究所の保健医療分野における基礎研究推進事業を推進した（青木淳賢教授）。
8. （独）科学技術振興機構の独創的シーズ展開事業：大学発ベンチャー創出推進を推進した（寺崎哲也教授）。

(2) 特筆すべき研究・診療活動の取組と成果

教員の優れた研究活動に対して以下の賞が授与された。

- ・ International Society for the Study of Xenobiotics-New Investigator Award (Asia-Pacific) 2011 (23年4月、吉成浩一准教授)、日本薬理学会第26回学術奨励賞 (23年3月、森口茂樹講師)、第27回井上研究奨励賞 (23年2月、植田浩史助教)、第27回井上研究奨励賞 (23年2月、岡野健太郎助教)、平成22年度日本薬学会東北支部奨励賞 (22年12月、鈴木直人准教授)、平成22年度日本薬学会東北支部奨励賞 (22年12月、杉本健士助教)、有機合成化学協会奨励賞 (23年2月、有澤美枝子講師)、日本高血圧学会学会賞 (22年10月、今井潤教授)、第9回インテリジェントコスモス奨励賞 (22年5月、菊地晴久准教授)、平成22年度東北分析科学奨励賞 (22年12月、高橋成周助教)、平成22年度日本薬物動態学会奨励賞 (22年10月、平塚真弘准教授)、第80回日本衛生学会学術総会会長賞 (22年5月、黄基旭講師)、有機合成化学協会ロンザジャパン研究企画賞 (23年2月、吉田将人助教)、American Association of Pharmaceutical Scientists-Meritorious Manuscript Award (22年11月、寺崎哲也教授、大槻純男准教授、内田康雄助手)、日本神経化学会奨励賞 (22年9月、森口茂樹講師)、合計15件。

(3) 特筆すべき社会貢献、国際化等の活動の取組と成果

1. 附属薬用植物園の活動

附属薬用植物園は一般市民に開放しており、薬用植物や有毒植物の知識の普及・啓蒙に努めた。さらに、宮城県と宮城県薬剤師の協力のもとに設置された「日本薬用植物友の会」（会員数：約 300 名）に薬用植物の観察の場を提供し、薬用植物に関する知識の啓蒙活動を行った。また、友の会が主催する植物観察会や講演会活動を全面的に援助した。国際逐次定期刊行物として登録され、国立国会図書館にも寄贈されている友の会会報の編集でも中心的役割を果たした。加えて、「生薬・漢方薬認定薬剤師のための薬用植物園実習」を 2 回実施した。

2. 生活習慣病やその合併症の発症の予防

今井潤教授が中心となって行っている「大迫研究」は、生活習慣病やその合併症の発症の予防に貢献した。同教授が中心となり、降圧薬服用者の家庭血圧コントロールに関わる要因と予後・臓器障害との関連を明らかにするために推進している臨床疫学研究「J-HOME 研究」は、個々の患者の治療に貢献するとともに、高血圧治療における薬物療法基準を示した。これらの貢献に対して、平成 22 年 10 月に今井教授に日本高血圧学会賞が授与された。

(4) その他、特筆すべき活動等の取組と成果

1. 大気中、海水、土壌及び植物中の放射線及び放射能のサンプリング測定

理学研究科、高等教育センターと合同で、放射性物質による宮城県環境への影響調査活動を定期的に行っている。福島第一原子力発電所事故直後から、宮城県各所における土壌、植物、海水、河川水をサンプリングし、放射能分布測定を行い、県における環境放射能の基礎データ蓄積に貢献している。

2. 放射線及び放射能のメンタルケア

薬学研究科ラジオアイソトープ研究教育センターの大内浩子講師は、日本保健物理学会有志による「専門家が答える暮らしの放射線 Q & A」<http://radi.info.com/>に参加し、福島第一原子力発電所事故により放出された放射性物質による影響等に関して、国民からの質問に客観的事実とデータを基に回答する活動を継続している。